

第17回 ネイチャーキッズ特派員

とうほく南三陸探検隊
ネイチャーキッズ賞作文&体験記録集



プロジェクトについて

公益財団法人世界自然保護基金ジャパンと株式会社カスミは、2002年より環境活動・環境教育の一環として自然体験エコツアーを実施しています。...

- WWF奨励賞入賞者
●雨倉 琉偉 千葉県立泉谷小学校 6年
●保川 仁 柏市立中原小学校 5年
●打木 真里愛 ひたちなか市立清瀬第一小学校 6年
●土蔵 めぐみ 江戸川区立清瀬第一小学校 4年
●岡安 翼 春日部市立立川小学校 6年
●流山市立立川小学校 6年
●土蔵 拓 江戸川区立清瀬第一小学校 6年
●海老根 拓斗 茨城大学教育学部附属小学校 5年

第17回 ネイチャーキッズ賞入賞者



ネイチャーキッズ賞作文・探検隊員手作り壁新聞 画面～11画面
作文&体験記録集はカスミのホームページでもご覧いただけます。http://www.kasumi.co.jp/

- カスミ奨励賞入賞者
●岡野 将弥 阿見町立あさひ小学校 6年
●山崎 優亜 町田市立町田第二小学校 6年
●石塚 大 千葉市立仁戸名小学校 6年
●児嶋 悠斗 葛飾区立立花小学校 5年
●西本 誠歩 つくば市立松代小学校 5年

ネイチャーキッズ特派員 概要

作文募集 4/2～5/21
7/14 任命式 (説明会)
ネイチャーキッズ賞の8名に探検隊としての任命証を渡しました。

ツアー実施 7/22～25 探検隊プログラム
7/22 町を知る
7/23 海を感じる
7/24 海と共に生きる力を育む
7/25 海と共に生きる力を育む

8/25 体験のまとめ報告会
ツアーから戻ると体験の記録や感想を手作り壁新聞にまとめ報告会を開いて内容をそれぞれに発表し、体験を振り返りました。

多様な生物の生きる南三陸の海と
人々の暮らしについて学んだ3泊4日のエコツアー

南三陸町の海は、寒流(親潮)と暖流(黒潮)がちょうど混ざり合う穏やかな湾で、カキ・ホタテ・ワカメの養殖が盛んな漁場です。...

海を感じる [シュノーケリング観察会&カヤック体験]



南三陸の宝物の海。海に入って海藻や生物を観察しました。
水面に座るかのような目線で乗るカヤック。レクチャーを受けて、上手にハンドリングできました。

町を知る [町の散策]



震災後の南三陸町を巡り自然の大きさを知る
田東山(たつがねさん)は古くから山岳信仰の霊山として人々の信仰を集めてきました。...

海と共に生きる力を育む [神崎キャンプ場 キャンプ&BBQ]



キャンプ場では自分たちでテントをたてることからはじまりました。
薪に火をつけるのは、マッチを使うところから苦労していました。

森にふれる [森のトレイル]



神行堂山麓の杉林の奥深くに横たわる巨石を訪ねました。
大自然が創った不思議な造形です。...

お世話になったみなさん

4日間ありがとうございました!
NPO法人海の自然史研究所 海のビジターセンター長 平井 和也さん(ピース)
NPO法人海の自然史研究所 海のビジターセンタースタッフ 嶋山 友美子さん(オリブ)

発行によせて
WWFジャパン様との協働で2002年より当事業である自然体験エコツアーを実施して17年目となり、今年も東北南三陸を体験のフィールドとして訪れました。...

# とうほく南三陸の探検! 山と海の自然を

3日目 たつがねさん かみだいら  
田束山～神平周辺

森のトレイルで  
田束山や巨石に  
登りました



1日目～2日目 したみちそう  
下道荘



お世話に  
なりました!

3日目

ちよこっと  
木のぬくもり  
あふれるお店  
「ちよこっと」さん  
でお昼ごはん



1日目～2日目

海のビジターセンター



2日目

坂本海岸<カヤック・シュノーケリング>



海でカヤックと  
シュノーケリング  
海釣りを  
体験しました

お昼休みに  
スウェーデンの  
ウッドスポーツ  
Kubb(クubb)で  
遊びました



3日目～4日目

かみわりざき  
神割崎キャンプ場  
<プログラムの実施と宿泊>



ごはん作りは  
班に分かれて、  
BBQの下ごしらえ、  
カレー作り、  
はんごうでごはんを  
炊きました。



# とうほく南三陸町



## WWFジャパンと とうほく南三陸

ギンザケやカキ、ホタテやワカメなどの養殖業が盛んな宮城県南三陸町。志津川湾を囲むように志津川地区・歌津地区・入谷地区・戸倉地区と4つの地区から形成されるこの町は、2011年3月の東日本大震災で大津波による甚大な被害を受けました。

WWFジャパンは、大きな被害を受けた地元の基幹産業である水産業を震災前そのままの状態に戻すのではなく、海の環境に配慮した新しい養殖のあり方を模索し、その実現に向けた取り組みを行なっています。



**わたしが里山で学んだこと**  
 土浦市立土浦第二小学校 四年 松下 奈央

わたしは週末、里山の田んぼの学校に行きます。そこで米作りをしていると、たくさん生きものの気配を感じます。

どろの田んぼに足あとがついていて、「鳥かな」とわたしが言ったら、田んぼの学校のあべさんが、「野うさぎだよ」と教えてくれました。ここに、うさぎがいるんだと思うとわくわくしました。

あべさんが山のむきだししや面をさして二穴がみえるかな。大きいほうの穴はモグラ。小さいほうの穴は赤ねずみのだよ」と言いました。モグラは絵本でしか見たことがありません。穴からヒョコッリ出てきてくれないかなと思いました。そして、ネズミ色でも白色でもなく、赤色のネズミがいることにびっくりしました。

わたしは、家に帰ってさっそく図かんで赤ネズミのことを調べました。「えー、茶色やん」とつぶやいたり、お母さんがのぞいてきて「赤茶色やね」と言いました。

里山で男の子が虫をつかまえて、「これ、持って帰ってほしい」とあべさんに聞いていました。ざい来種だから、ここにおいてあげて。外来種だったらとってもいいよ。」と聞いていました。

わたしは、じいじとしてとっていいものとダメなものがあるのかわかりませんでした。そこで、わたしは、ざい来種は昔からここでいきているもの、外来種は外からきた生きものであること、外来種はざい来種の生活をおびやかすものになっていくことを知りました。

そうか、自ぜんを守るためにざい来種をむやみにとつちやいけなんだ。そして育てきれなくなった外来種のペットを自ぜんにはなしちゃダメなんだと思いました。わたしは自ぜんを守りながら生きものを大切にすることを学びました。

**緑のフリスマス**  
 つくばみらい市立陽光台小学校 四年 曾 泰森

ぼくはサントさんに一つだけ望みをかかってもらえるとしたら、家の周りの緑を増やしてほしいです。理由は、以前は空き地だったところが、今では住宅で埋めつくされているからです。ぼくは、住宅で埋めつくされても、空き地などの生き物が住む場所も必要だと思います。

なぜなら、生き物や動物たちのすみかだけでなく、ついでに、絶滅危惧種などが増えてしまつからです。どのくらい増えているかというところ、二億年前は千年に一種絶滅していたけれど、今では一年に四万種以上も絶滅しているそうです。この星には、人間の他にも生き物や動物たちがたくさん暮らしているのだから、ぼくたちは食物連鎖のパラシスを考えて行動しなければならぬと思います。つまり、この星は丸ごと「人間の星」とは言い切れないのです。

また、動物以外にも、木などの緑がなくなると地球上の二酸化炭素が増えすぎてしまい、反対に酸素が減つてしまつます。そうしたら、地球温暖化がさらに進んでしまつかもれません。人間がこのまま緑を破壊し続けると、この星は「死の星」になってしまうのです。

これらの解決する方法が一つだけあります。それは、木を増やし、動物の住める豊かな自然を作ることだと思ひます。そして、ごみなどを燃やさず、リサイクルしたりして、森の木の肥料にし、地球温暖化などの影響が出ないようにすべきです。例えば、ぼくの家では、生ごみを庭のブルーベリーやヒマワリの根元に埋めて、肥料にしています。すると、ブルーベリーは大きくなって甘実がたかさんになりました。また、ヒマワリはとっても美しい、大きな花を咲かせました。このような簡単な工夫をするだけで、環境にやさしいことができるのです。

ぼくは自然と生き物が大好きです。だからサントさん、ぼくに緑を守る力をください。

海とともに生きるまち

# 南三陸町新聞

第17回(2014年9月22日~25日) ネイチャーキッズ特派員 松下 奈央 (土浦市立土浦第二小学校四年)

**一番たのしかったキャンプ**

キャンプについて、カヌーというのを知りませんでした。カヌーは、友達とぶつかってばりだつたけれど、だんだんコントロールできるようになりました。コブを浮かめた時の「いい」と思いました。わたしの家のそばに霞ヶ浦という湖があります。そこでもカヌーが遊べるそうです。わたしはカヌーを遊んでみたいと思います。

**海を感じる**

つりまじいかなんて思ひました。どういふでいいかな。みんなで釣りに行きました。

**海をめぐる**

下道にのぼる人が多かったです。2ひきもあつて、おもしろい水がたつた。おもしろい水がたつた。おもしろい水がたつた。

**お土産コーナー**

ホヤもおもしろい。たす。味つけがおいしい。たす。味つけがおいしい。たす。味つけがおいしい。

**感謝の気持ちをこめて**

友達になるのに時間がかかるわたしが、南三陸町で友達を作ることができました。南三陸町のみなさん、ありがとうございました。

**みんなありがとう**

お心に残る思い出になりました。



# 南三陸探検レポート

第17回 ネイチャーキッズ特派員 曾 泰森

**南三陸町を襲った津波**

ぼくのわづかな時間で南三陸町が津波にのみこまれていくのを見て、津波のおそろしさを知りました。また、佐良スタンプオの東日本大震災で苦しんでいる南三陸の人たちの家も見たらとても悲しくなりました。

**新しい未来を作ろう!**

南三陸のていぼう

南三陸の人たちは、津波で家などが流されてもくよくよせず、これからどうするかを考えていました。ぼくは、そんな南三陸の人たちを応援したいです。また南三陸の人は、津波が来ないようにするために、おこづかいなていぼうで海をかまひうことを考えました。

**親切な南三陸の人**

3日目、ぼくたちは神楽崎へ行く途中、牛小屋を見つけました。すると、あるおばさんが牛を見て行かないかとつてくれました。そのおばさんは、やさしく牛についていろいろ話をしてくれました。ぼくは、はじめて食べた牛の肉に、おばさんに親切にしてくれておばさんに話してくれました。みんな南三陸の人をぼくはよく見習いたいな。

**大きなくらいの鳥**

このワンは、羽を広げると1.2~1.5mくらいありそうでした。とてもダイナミックで、毎年南三陸をおとす鳥だそう。

**ぼくがキャンプで、オススメな物**

上の写真は、三日に行つた、キャンプのとき、わたしの写真です。ぼくたちは、スーパーマンマロを食べて、おもしろい方法で食べました。



### 鳥と共存できる街を創るために つくば市立吾妻小学校 六年 樋野遥

私の住む街では、鳥が嫌われている。フンや鳴き声で、人に迷惑をかけるから、街路樹を切ったり、追い払う音を鳴らしたりしている。私も、フンを落とされたり、おやつを取られたりして、嫌な思いをしたことがある。

私は以前、八溝山の木を使った木工教室で本立てを作った。木が余ったので、巣箱とエサ台も作って庭に置いた。ツブヒ、ツブヒ、ツブヒ。それから毎年、シジュウカラが庭に来るようになった。去年はメスとオスがつかいで来た。ある日から、メスが毎日巣箱にコケをくわえて来るようになった。オスが見張りをして、「ツブヒ、安全だよ」「ツブヒ、危険だよ」とメスに教えていた。私が見ている間にも、ひっきりなしに巣箱を出入していた。もしかして子育てしようとしているのかな、と思って巣箱の中を見てみた。ふわふわのコケのベッドの上に、卵が五つ乗っていた。鳥の留守を見計らって卵の観察をしていたが、ある日、近所の猫が触って、巣箱が落ちてしまった。あわてて見に行ったら、卵はコケのベッドのおかげで一つも割れていなかった。

その後、私は簡単に倒れないように、巣箱をひもでグルグルに巻いて固定した。しかし、「二三日すると、親鳥が巣箱に来なくなってしまう。猫のせいだろうか、ひものせいだろうか。このままでは卵が死んでしまう。私は学校に卵を借りに行ったら、前に力毛の卵をかえしたふ卵器だったが、もう学校には無かった。仕方なく数日待ったけれど、卵はかえらなかつた。とても悲しかった。

一生懸命子育てする鳥たちを身近に観察して、私は鳥が大好きになっていった。私は、将来鳥と人が共存出来る街を作りたい。もっと自然を豊かに残し、鳥が人に迷惑をかけない所でエサを取ったり巣を作ったり出来るように。今年も鳥たちは来てくれるかな。今度はヒナを見てみたい。

### 野山の妖精キンランとギンラン

つくば市立吾妻小学校 六年 樋野葵

「なんでこんなところが立入禁止なんだろう。三年生の夏、近くの公園で黄色と黒のテープに囲まれた場所を見つけた。希少植物観察中とあるが、植物図鑑をよく見てみると、私でも珍しい植物が見当たらない。気になって管理人に聞いてみると、「キンランとギンランだよ。春に花が咲くから来年にしたら探してこらん。」と教えてくれた。

家に帰って調べてみると、キンランとギンランはラン科の多年草で、キンランは黄色い花を、ギンランは白い花を咲かせることがわかった。また、昔は身近な野山でよく普通に見られていたけれど、開発や、里山の手入れ不足、乱獲が原因で、最近ではほとんど見られなくなり、私が住む茨城県では準絶滅危惧種に指定されていることがわかった。

待ちに待った次の春、初めて見たキンランは卵のような黄色、ギンランは絹のような白色の花をつけていた。ベルのような形の花は、小さな妖精みたいでとてもかわいかった。

家族で少し遠くの公園に行った時も木の下のキンランが咲いているのに気づいた。公園の端から端まで家族で一斉懸命探してみると、全部で六十本くらいあった。急いで公園の管理人に話すと、「きれいな花が咲いているのは知っていたけれど、これが希少植物だとは知らなかった。」と言っていた。私はそれから近所の歩道脇や空き地でたくさんキンランとギンランを見つけることができた。

キンランとギンランは土の中の菌と共生する不思議な花だ。きれいだからといって、自分の庭などに植え替えても枯れてしまう。私は学校で、キンランとギンランのことをみんなに知ってもらおうとスピーチをした。知ってもらえることが第一歩だからだ。

今年もいつもの公園に、キンランとギンランが咲いた。花の周りには、まだテープがあるけれど、私が大人になる頃には、準絶滅危惧種から外されるよう、大切に守りたい。

# 南三陸版 上

吾妻小 6年 樋野葵

感想  
宮城県にある南三陸町は、2011年に東日本大震災で多くの被害を受けました。2012年には三三商店街もでき、来年3月には仮設住宅も全廃するよう復旧が早くよかったです。

また、津波にそなえて、土也を高くしたりしていました。今は森などの自然が少しずつ戻ってきているけれど、カエルやウミコケなどもいなくなりました。

海のビジャセンター  
海のビジャセンターは、平成25年11月にオープンしました。二階、復興回廊が完成して周辺の自然を堪能することができます。

魚が種類ほど見えた。  
魚は種類が豊富で、お魚が大好きです。

カスミWWFのスタッフのみなさん  
4日間ありがとうございました。

カヤック  
カヤックは、海を渡るための道具です。最初は怖いけど、慣れてくるととっても楽しいです。

乗り方  
乗る時は、しっかりと座り、足はしっかりと踏んでください。

アメフラシをさわった  
アメフラシは、海で食べる生き物です。さわると、とても気持ちいでした。

工事の様子  
工事の様子を見学しました。新しい建物や道路ができています。

東日本大震災から約7年がたち、海はまた元々に戻って来ています。



# 南三陸版 下

吾妻小 6年 樋野遥

まとめ  
南三陸町に行く前に父が東日本大震災直後の写真を見せてくれた。今の町並みは、震災前と比べて、とても綺麗で、とてもいい匂いがする。また、お祭りやイベントもたくさんあります。南三陸は、とても自然が豊かです。私が大人になったら、南三陸の町に暮らしたいと思います。

田東山  
景色が綺麗で、とてもいい匂いがする。お祭りやイベントもたくさんあります。

三三商店街  
三三商店街は、とても賑やかな場所です。お祭りやイベントもたくさんあります。

WWFの方カスミの4日間  
ありがとうございました。

4日目 3日神楽崎  
神楽崎は、とても美しい場所です。お祭りやイベントもたくさんあります。

4日目 神楽崎  
神楽崎は、とても美しい場所です。お祭りやイベントもたくさんあります。

4日目 神楽崎  
神楽崎は、とても美しい場所です。お祭りやイベントもたくさんあります。

4日目 神楽崎  
神楽崎は、とても美しい場所です。お祭りやイベントもたくさんあります。

4日目 神楽崎  
神楽崎は、とても美しい場所です。お祭りやイベントもたくさんあります。



### 自然と生き物を大切にす未来

柏市立柏第八小学校 六年 石田龍成

「すごいよ。みんな来て。」と、妹が声をあげた。昨年の夏休み、近所のお祭りから帰ってきた時のことだ。急に駆け寄ってきると、扉にしまったアブラゼミの終礼幼虫が、今まさに羽化をしているところだった。殻の背中がさげ頭と背中が出てきていた。全体的に白く、所々薄緑色だった。

僕は生まれて初めてゼミの羽化を見た。木の繁った所でないと思われなかった。思った。しかし、今、目の前にいるゼミは、僕の家の塀で羽化をしている。駐車場のコンクリートの地面と塀の間に幅十センチメートルほどの土の部分がある。恐ろしく、そのわずかな土の中で幼虫時代を過ごしてきたのだらう。

何故こんな所にいるのかを考えてみた。アブラゼミの卵は約十ヶ月間、樹皮の中で過ごし、その後、幼虫は地中で約五年間を過ごす。卵が産みつけられた時期と、この家が建てられた時期がちょうど重なる。今まで建てられた場所がどこにいても、家が建ち、住宅街になったのだから、ゼミのお母さんはきっととまどったのだらう。住宅街の中の数少ない緑を探し、僕の家の玄関に一本だけある木を頼りに卵を産みつけたのだと思っ。それが幼虫時代に木の根を吸いながら脱皮と移動を繰り返して、いざ成虫になろうと地上へ出てみると、木も草もない塀の横だったのかもしれない。

塀にしがみついたゼミはたくましく懸命に生きようとしていた。力強く反り返り脚が出る。脚が固まるのと起き上がり全身を出す。やがて縮んでいた羽が広がる。すき通るような白色で、美しく、とても神秘的だった。僕たち人間が生きていくためには家が必要だが、同じく、虫や動物たちも生きていく場所が必要だと思っ。先週、父と一緒に家の庭に南天の木を植えた。たった一本の木だけれど、「自然と生き物を大切にす未来へ」とつながってほしい。

### 僕にも出来ることがある

土浦市立下高津小学校 五年 小野真心

カラフルな生き物たちといっしょに、自分も魚になったような気持ちになって泳ぐ。シノブケリンゴ。僕の大好きな趣味の一つです。サイパンのこのお魚、チビでもぐぐぐた時は、汚れたチヨウクのかたまりのようなサンゴだらけで、水中は景色色のようにした。集まってくる魚や鳥も、え付けが目的の数種類だけでした。父に聞くと、「白化」と言っ。サンゴが死にそうになっているのだと教えてくれました。その人の島には、ボートが次から次へと乗り付け、観光客をどっさり連れてきます。かんばんには、サンゴの上に立つと書いてありますが、はだしの人もくつを履いた人も、フィンを付けた人も、サンゴに登って踏んづけています。ショックを受けた僕は、白化について調べることになりました。

白化の原因はさまざま、地球温暖化による海水温の上り、陸地から流れて来る汚せん水や土、農業などから受けるストレスだと現在分かっているそうです。おどろいたのは、サイパンだけでなく、世界中の海、日本の沖縄の海でも白化が問題になっていて、このストレスだと気が付くことが出来た。

サンゴは一度白化したら、回復まで長い時間がかかり、そのまま死んでしまうこともあります。サンゴを守ることは、他の生き物を守ることもつながります。きれいで豊かな海で、僕たちが生きていけるように、出来ることを考えて発表していきたいと思っ。

